

29日 火曜

民数

16:15 モーセは激しく怒った。そして

【主】に言った。「どうか、彼らのささげ物を顧みないでください。私は彼らから、ろば一頭も取り上げたことはなく、彼らのうちのだれも傷つけたことはありません。」

16:16 それからモーセはコラに言った。「明日、あなたとあなたの仲間はみな、【主】の前に出なさい。あなたも彼らも、そしてアロンも。」

16:17 あなたがたは、それぞれ自分の火皿を取り、その上に香を盛り、それぞれ【主】の前に持って行きなさい。二百五十の火皿を、あなたもアロンも、それぞれ自分の火皿を持って行きなさい。」

16:18 彼らはそれぞれ自分の火皿を取り、それに火を入れて、その上に香を盛った。そしてモーセとアロンと一緒に会見の天幕の入り口に立った。

16:19 コラは、二人に逆らわせようとして、全会衆を会見の天幕の入り口に集めた。そのとき、【主】の栄光が全会衆に現れた。

16:20 【主】はモーセとアロンに告げられた。

16:21 「あなたがたはこの会衆から離れよ。わたしは彼らをたちどころに滅ぼし尽くす。」

16:22 二人はひれ伏して言った。「神よ、すべての肉なるものの霊をつかさどる神よ。一人の人が罪ある者となれば、全会衆に御怒りを下されるのですか。」

16:23 【主】はモーセに告げられた。

16:24 「会衆に告げて、コラとダタンとアビラムの住まいの周辺から引き下がるように言え。」



16:25 モーセは立ち上がり、ダタンとアビラムのところへ行った。イスラエルの長老たちもついて行った。

16:26 そして会衆に告げた。「さあ、この悪い者どもの天幕から離れなさい。彼らのものには何もさわってはならない。彼らのすべての罪のゆえに、あなたがたが滅ぼし尽くされるといけないから。」

16:27 それでみなは、コラとダタンとアビラムの住まいの周辺から離れ去った。ダタンとアビラムは、妻子、幼子たちと一緒に出て来て、自分たちの天幕の入り口に立った。

16:28 モーセは言った。「私を遣わして、これらのわざを行わせたのは【主】であり、私自身の考えからではないことが、次のことによってあなたがたに分かる。」

16:29 もしこの者たちが、すべての人が死ぬように死に、すべての人の定めにあうなら、私を遣わしたのは【主】ではない。

16:30 しかし、もし【主】がこれまでにないことを行われるなら、すなわち、地がその口を開けて、彼らと彼らに属する者たちをことごとく?み込み、彼らが生きたままよみに下るなら、あなたがたはこれらの者たちが【主】を侮ったことを知らなければならない。」

16:31 モーセがこれらのことばをみな言い終えるやいなや、彼らの足もとの地面が割れた。

16:32 地は口を開けて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての所有物を?み込んだ。

16:33 彼らと彼らに属する者はみな、生きたまま、よみに下った。地は彼らを包み、彼らは集会の中から滅び失せた。

16:34 彼らの周りにいたイスラエル人はみな、彼らの叫び声を聞いて逃げた。

「地がわれわれも?み込んでしまわないか」と人々は思ったのである。

16:35 また、火が【主】のところから出て、香を献げていた二百五十人を焼き尽くした。

モーセは自分が非難されたときには「ひれ伏し(4節)」でしたが、神のみわざが歪曲されたときには「激しく怒った」ようです。もししたらこの時点で、批判者が主に受け入れられないことを確信したかもしれません。

主は「あの者どもをたちどころに絶滅してしまう」と言われました。これに対してモーセとアロンは「全会衆に御怒りを下されるのですか」と、民のためにとりなしをしています。ここに彼らが主から選ばれた理由があるようです。

主から立てられた指導者を尊重することが重要です。そして指導する者は、相手が一人であっても大勢であっても、モーセのように主の前に正しい動機で、主の主権の前にひれ伏して導かなくてはなりません。

31節から、天災とも言えるような出来事が起こされました。反逆した者たちは、家族や縁者たちとともに、地に飲み込まれました。家族もともに滅ぼされたのは、彼らが反逆の張本人とともにいて離れなかったからかも知れません。主は「悪者どもの天幕から離れるように警告していたにも関わらず。またモーセに逆らった二百五十人も滅ぼされました。人の思いよりも主の御心に従いましょう。」

①神のみこころは? ②どんな思いになりましたか? ③生き方にどう適用しますか? ④この世にあって何を実践しますか?